

専念寺通信

専念寺通信

十一月号 (NO. 87)

今年も残すところあと2カ月となりました。11月になってもまだまだ暖かい日が続いています。今年はや暖冬になるのでしょうか。それともきびしい寒さが来るのでしょうか。『通信』11月号をお届けいたします。

☆政治家や企業家は・・・。

10月は複数の食品メーカーが、商品の製造日や内容を偽って表示する事件が相次ぎました。比内鶏から伊勢の赤福など、数百年という歴史を持つ伝統的な店が製造中止の処分を受けたりしました。いずれの不正も数十年前から行なわれていた様子で、今までは誰も何もいわずに来たため、表沙汰にならず、経営者も知らんぷりができていたわけです。ひとつの会社で、ひとつの隠し事が露見すると、別の会社でも「実は私のところでも・・・」となり、少しずつ真実が国の人々に知らされるようになったと思えます。ちょっとしたきっかけで、いずれも大きな企業の社長さんと呼ばれるような人が報道陣の前で深々と頭をさげて「お詫び」する光景が見られる結果となり、少しずつ軌道修正がなされます。

政治家のあいだでも、数十年前ならお目こぼしだったことが、ちょっとしたきっかけで露見し、国の人々に知らされるようになりました。前の防衛事務次官が、企業の接待を長く受けていた問題がそうです。しかも軍事産業に関わる業者からです。身分や高給が保証されていてもなお、それ以上、彼は何がほしかったのでしょうか。また、年金のずさんな管理とお役所の人たちのひどい「使い込み」もさほどの解決が見られぬまま、今度は薬害によりC型肝炎にかかってしまった人の名前がわかっていながら、長

くそれを隠していた事実も露呈されました。分った直後に本人に知らせていれば助かった命も、国の隠し事で失われたと言えます。更には、「平和貢献」のためのはずだった自衛隊の救援活動が、結果として、イラクの普通の人達を空から攻撃する手助けに使われていた疑いも出てきました。インド洋の空母へのオイル供給です。この『通信』でも何度か書いてきましたが、そもそも「テロとの戦い」とはなんだったのでしょうか。まず、最初に戻って考えなおす必要があると思います。「テロとの戦い」を始めてから、世界は平和になったのでしょうか。日本はオイル供給以外の方法で貢献できることがあるのではないのでしょうか。私たち普通の人間のこうした素朴な疑問を、常に大事に持ち続けていくことが、いつか思いがけない大きな力になり得ると信じています。

☆**小さなお知らせ**：庫裏の屋根瓦がとても古くなり、一部、雨漏りがするようになってしまいました。10月30日から、雨樋も含めて、修理することになり、毎日、職人さんが入っています。本堂はまだまだ頑丈ですが、墓地の塀など、ところどころが少しずついたんで来ているので、順に手を入れてととのえていく予定です。

☆**もうひとつ小さなお知らせ**：今年初めての銀杏がとれました。まだいちよの葉は青々としていますが、台風で落ちた数粒を葉っぱと並べて写してみました。去年の今頃は銀杏の実はどんどん落ちて、どんどん皮をむいて洗って干していましたが、今年はいぶ遅いようです。

朝晩、冷え込んで参りました。みなさま、お風邪を召さぬよう、お元気で過ごして下さい。
平成19年11月
1日 大黒

